

岡谷市新病院建設基本構想の概要

市では、市民のみなさんの信頼と期待に応えることのできる新病院の建設をめざして、新病院建設基本構想を策定しました。

1. 医療をとりまく環境の分析と課題の検証

■人口動態や患者数の将来予測とともに、現在の医療制度や医師不足など、医療を取り巻く環境を分析し、地域における市民病院の位置づけを確認

→地域で完結できる医療の提供

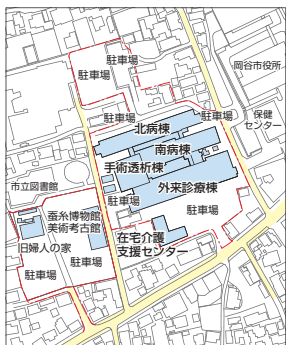
■新病院建設をめざした過去からの経過とともに、市民病院の経営状況を分析、岡谷市病院改革プランに基づく経営改善を推進

→経営改善の見通し

■施設の老朽化や構造的な狭さなど、施設環境面での様々な課題から建替えの必要性を検証

→抜本的な施設の建替えが必要

施設現況と建て替えの必要性 —— 将来を見据えた抜本的な施設整備が必要です



現状

敷地面積…
現在地約21,000㎡
建物延床面積…約16,600㎡
病床数…264床
※市民病院全体では塩嶺病院を含めて317床

市立岡谷病院	新築時期	経過年数
外来診療棟	昭和39年～41年	45年
管理手術棟	昭和60年～61年	26年
南病棟	昭和35年～36年	49年
北病棟	昭和56年～57年	30年
看護師宿舎	昭和41年～42年	43年
立体駐車場	平成7年	15年



狭い廊下の待合



きゅうくつな病室



急な階段



院内のスロープ

【環境面】

- 廊下や待合、病室などの狭さ、構造的な使いづらさは、他病院に遅れを取った状況になっています。
- 快適な診療環境、働きやすい施設環境を提供するためには、現状では対応が難しく、この状況を続けることは、病院の魅力低下や今後の医師確保にも影響が心配されます。

【施設面】

- 急な階段、廊下のスロープなど、バリアフリーへの対応が困難な構造上の問題があります。
- 増築スペースが確保できず、医療機器の導入も困難となっています。
- 建築から半世紀近く経過した建物は老朽化が進み、改修での対応は限界となっています。

【機能面】

- 施設が平面の複雑な形状で、人の移動や物品搬送などに使いにくさがあります。
- 現在も塩嶺病院と医療機能が分散し、職員配置や重複する経費などの非効率性の問題があります。

【安全性】

- 病院は災害時には拠点施設となる重要な施設であり、将来の地震災害などにも備えた、安心の施設を整備する必要があります。

【経済性】

- 配管などの設備も経年劣化が進み、維持費の増加が見込まれるため、コスト抑制を図るなど、経済性や環境に配慮した施設が必要です。

2. 新病院に向けた基本的な考え方

岡谷市民病院の基本理念 (平成22年7月制定)

岡谷市民病院は、「思いやり」を基本理念に、心温まる患者サービスを提供し、地域の人々に信頼され親しまれる病院をめざします。



基本理念の実現に向けた5つのキーワード
「行動指針」

- ◎ やさしさ
- ◎ わかりやすさ
- ◎ プライバシー
- ◎ スピーディー
- ◎ アメニティ (快適さ)

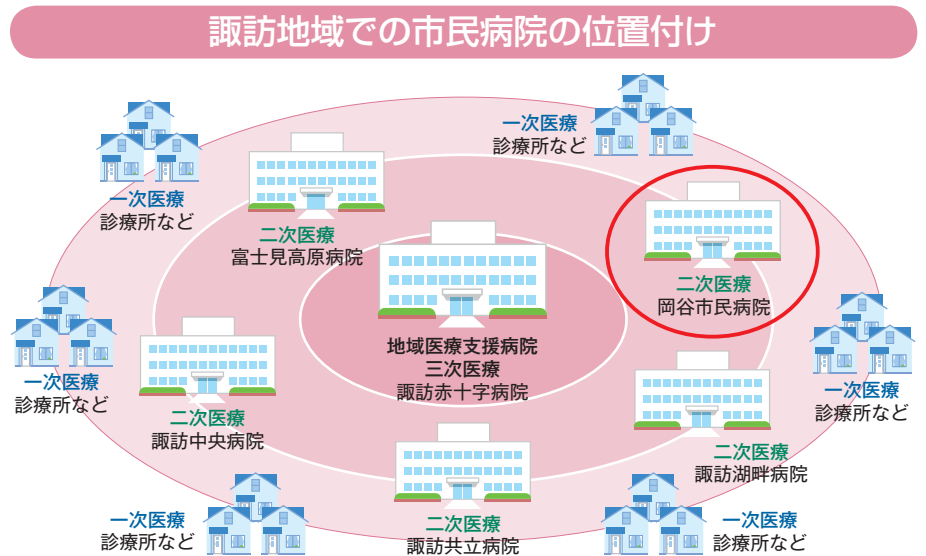
岡谷市民病院の位置付け

【入院機能】

急性期を中心とした二次救急を担い、急性期から慢性期までの幅広い医療を提供しつつ、高い医療水準を備えた病院をめざします。

【外来機能】

地域の医療機関 (開業医) と連携した診療を提供し、高度で専門的な診療が必要な場合には、対応できる病院へ患者さんを紹介することで、地域全体で見守る地域完結型医療を提供できる体制の構築をめざします。

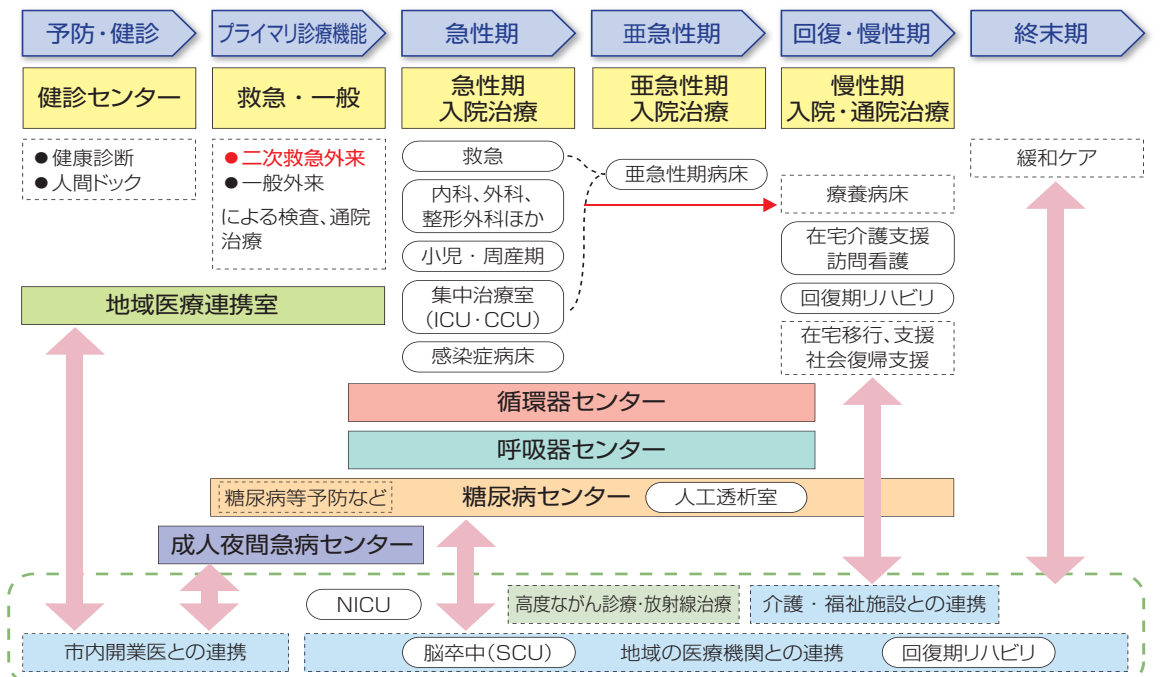


岡谷市民病院の役割

予防医療から健診をはじめ、入院してから自宅に戻るまでの幅広い医療需要に対応できる市民病院

【主な機能】

- 循環器センター
- 呼吸器センター
- 糖尿病センター
- 健診センター



3. 施設整備の検証

建設整備の基本方針

1. 患者中心の建築計画

- バリアフリーとユニバーサルデザインの考え方により、施設を利用する全ての人に快適な空間を提供
- 診療、療養環境の向上を図るとともに、プライバシー確保に配慮

2. 機能的で働きやすい建築計画

- 機能的な部門配置と動線計画により、わかりやすく働きやすい建築計画
- 将来の医療需要や環境の変化への対応を見据えた建築計画

3. 災害に強い建築計画

- 災害時を想定したライフラインの確保と災害への対応
- 地震災害後においても病院機能を維持する建物構造

4. 経済性を考慮した建築計画

- 経済性、耐久性に優れた部材、機器などの調達によりメンテナンスの容易化を図り、ライフサイクルコストを縮減
- 省エネ、省CO₂など地球環境への配慮

建設計画の概要

- (1) 病床数…300床程度 (病床数は建物設計に合わせて決定します)
- (2) 病床構成…一般病床、感染症、療養病床 (一般病床はICU、回復期リハビリ、緩和ケアを含む)
- (3) 敷地面積…約28,500㎡ (文化センター跡地7,500㎡および現在地21,000㎡)
- (4) 建築位置…文化センター跡地 (現在地に病院駐車場ほかを整備)
- (5) 建築面積…延床面積 約21,000㎡ (外来や廊下などを含む全体面積としては1床あたり約70㎡程度)
- (6) 建物構造…免震構造の採用を基本とする
- (7) 病室配置…個室率20%程度、多床室は4人部屋を基本とする
- (8) 駐車台数…420台以上 (最大520台程度)
- (9) 概算事業費…約90億円 **★現時点での最大値であり、さらに抑制を図ります。**

設計関係 …………… 約2億9千万円

建築工事費 …………… 約63億円 (単価30万円/㎡以内)

外構、解体費 …………… 約6億6千万円

医療器械整備 …………… 約10億円

移転、財産処分費 …… 約7億5千万円

財源想定…企業債約78億円、その他約12億円

(10) 建物配置想定…地上6階程度

※建物の詳細な配置内容は、今後の建物設計で明らかにするため、階層や形状は大まかなイメージです。

病棟
病棟
病棟
手術室・ICU・病棟
診察・健診・透析
外来・診察・検査・会計

新病院の建設場所



現状



A案

新病院の配置や形状はイメージです。今後の建物設計で詳細を決定します。

整備スケジュール

年度	内容	概算事業費
平成23年度	設計準備・基本設計など	約1億円
平成24年度	実施設計など	約1億6,000万円
平成25年度	業者選定、建設工事着手	約19億4,000万円
平成26年度	建設工事	約36億9,000万円
平成27年度	工事完成、移転、開院	約31億1,000万円
合計		約90億円

※スケジュールは現時点でのおよその期間であり、今後の設計などの段階で変更もあります。

★事業費は現時点での**最大値**です。今後の建物設計などを詰めながら、さらなる**事業費の抑制**を図ります。

建設した場合の経営見通し

★建設に伴う事業費を加えて、現在見込める範囲で積み上げた経営推計より、病院事業の将来の資金の見込みなどから、建設の前後において**経営を維持**していくことができると見込んでいます。

★建設事業の推進にあたっては、**経営改善の努力を重ね**ながら、さまざまな状況変化などに適切に対応していきます。

新病院建設基本構想の策定までのおもな取り組み

平成22年 2月 新病院建設基本構想策定検討委員会の設置(委員21名 以降、全9回の会議を開催)

4月 施設集約により新たな体制で市民病院がスタート

7月 市民病院の新たな基本理念、基本方針を制定

8月 整備手法の「たたき台」3案の提示(委員会、議会)

9月 収支見込みと建設による経営推計を報告(委員会、議会)

10月 構想(素案)による中間報告(委員会、議会)

まちづくり集会による市民のみなさんとの意見交換

11月 **構想(案)**のとりまとめ、報告

12月 構想(案)に対するパブリックコメント募集(~平成23年1月7日まで)

検討委員会から構想に関する市への提言書を提出

市議会(新病院建設特別委員会)に**構想(最終案)**を報告

平成23年 1月 市議会(新病院建設特別委員会)が構想(最終案)を了解

2月 **岡谷市新病院建設基本構想策定**



検討委員会の様子



提言書の受領

今後も、市民のみなさんの信頼と期待に応えることのできる病院づくりを進め、次の世代にも、より良い医療の提供ができる新病院の建設をめざして取り組んでいきます。

新病院建設基本構想に関する問合せ●新病院建設準備室(内線1524・1527)

市民公開講座 糖尿病とうまく付き合うために

健康な体を維持し、快適な生活を送っていくためには、日頃から健康に留意し、予防に努めていくことが重要です。特に糖尿病などの生活習慣病は、日常の生活習慣が発症に深く関わっているといわれています。今回は、糖尿病とその合併症をテーマに、日ごろの生活で注意する点や治療について一緒に考えてみましょう。

期日…3月21日(月・祝)

時間…午後1時30分~4時(午後0時30分開場)

会場…カノラホール 小ホール

[内容]

◆基調講演

「糖尿病 -10年先の自分を見据えて-」

信州大学大学院

加齢病態制御学分野 駒津 光久 教授



◆パネルディスカッション「早期治療で合併症を防ぐ」

信州大学 駒津光久教授、岡谷市民病院医師 平山二郎・

翠川 隆・永井 稔・平松邦英、保健師 山下朋子

★会場に無料の血糖値測定コーナー、食事相談コーナーなどを設けます(午後0時30分~1時20分)。食品関連の展示も行いますので、あわせてご覧ください。

★糖尿病に関する質問を事前に受け付けます(パネルディスカッションのなかで回答)。質問のある人は、岡谷病院医療総合相談窓口にお持ちいただくか、郵送、電子メールで下記に送ってください。

郵送の場合…〒394-8512 岡谷市本町4-11-33

市立岡谷病院病院経営推進室

電子メールの場合…mail@okaya-hosp.jp